

現場DXでの
AR（拡張現実）今と未来

講師



内藤 優太

エピソテック株式会社 代表取締役

■ 略歴

2015年:

横河電機株式会社入社。

VRを使った現場教育ソリューションの新規ビジネス開発のリードを担当。

2020年:

エピソテック株式会社創業、代表取締役就任。

AR現場支援システム「Dive」を開発。

弊社について



会社名	エピソテック株式会社 Episotech Ltd.
所在地	東京都 杉並区
事業内容	DXを目的としたAR製品の提供

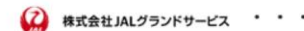
製品

AR現場支援システム Dive

導入企業

人材育成に課題をもつ、
機器・設備サービス事業者*にて活躍

* メンテナンスサービス、製造業等の設備・機器保守部門等



受賞履歴

AR現場支援のエピソテック、東京都が開催したTokyo Contents/Solution Business Award 2023で奨励賞を受賞



エピソテック株式会社（本社：東京都杉並区、代表取締役：内藤 優太）が開発・提供を行うAR現場支援ソリューション『Dive（ダイブ）』が東京都が開催したTokyo Contents/Solution Business Award 2023にて、奨励賞を受賞しました。11月22日に開催された産業交流展（※1）での授賞式に参加、表彰されました。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000091067.html>

建設業界との関連

建設CAD大手の福井コンピュータホールディングスが弊社へ、ベンチャー出資



福井コンピュータホールディングスの
CVCがエピソテック社に出資



新技術情報提供システム「NETIS」に
Diveが登録



現場DXでの
AR（拡張現実）今と未来

今回のセミナーで得られること

1. 会話の中で**どの種類のAR**が判断できる
2. **なぜ今ARが注目**されているかがわかる
3. **将来を見据えたAR導入検討**を開始できる

ARってなに？

ARとは？

現実世界にデジタル情報を
重ねて表示する技術



ユースケースによって
どう重ねるかが変わる

重ね方（ポピュラーなもの）



重ねる対象	現実世界そのもの	カメラ画像	現実世界そのもの
重ねるもの	物理ディスプレイ	画像	ホログラム
ARとして溶け込んでる感	×	○	◎
代表デバイス	<ul style="list-style-type: none"> • RealWear HMT-1 • Vuzix M400 	<ul style="list-style-type: none"> • スマホ • Meta Quest 3 	<ul style="list-style-type: none"> • HoloLens 2 • XrealLight

AR注目の背景

背景

**2024年問題により
作業時間短縮が急務**

どうする？

これまでとは同じ方法だと解決できない



なんか最近デジタル技術が進化しているぞ？



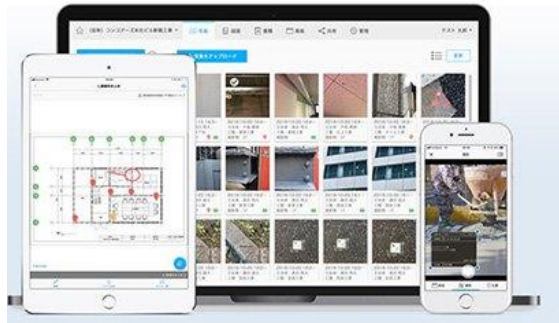
じゃあデジタル技術を使えば何とかなるんじゃないか？



DXにチャレンジしよう！

代表的なDX例

情報の一元管理



- 様々な人の管理工数を下げる
- 技術：クラウド・OCR

遠隔から現場確認



- 監督の移動工数を下げる
- 技術：ビデオ通話・センサー

ARの使われどころ

利用者の**情報確認・把握の負担を下げたい**とき

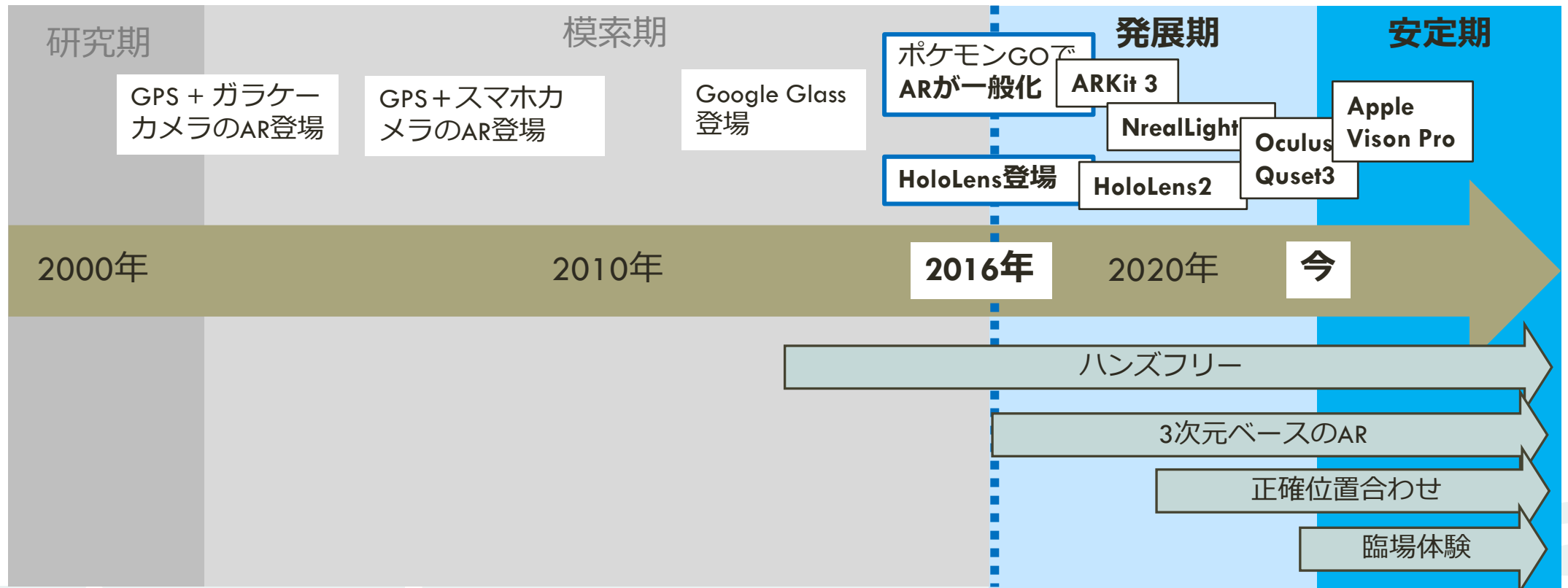
- **直観的**に情報を確認したい
- **ハンズフリー**で情報を確認したい

Point

少子高齢化・価値観変化により、人材が多様化してきている。
どんな方でも直観的・簡単に扱えるようなユーザーインターフェースが求められている。

ARのシーズ観点

- 昔から注目をあびつつも、実用的なアプリケーションがなかった。
- しかし、近年デバイス・技術が急進化し、**実用的なアプリケーションが開発可能**に。



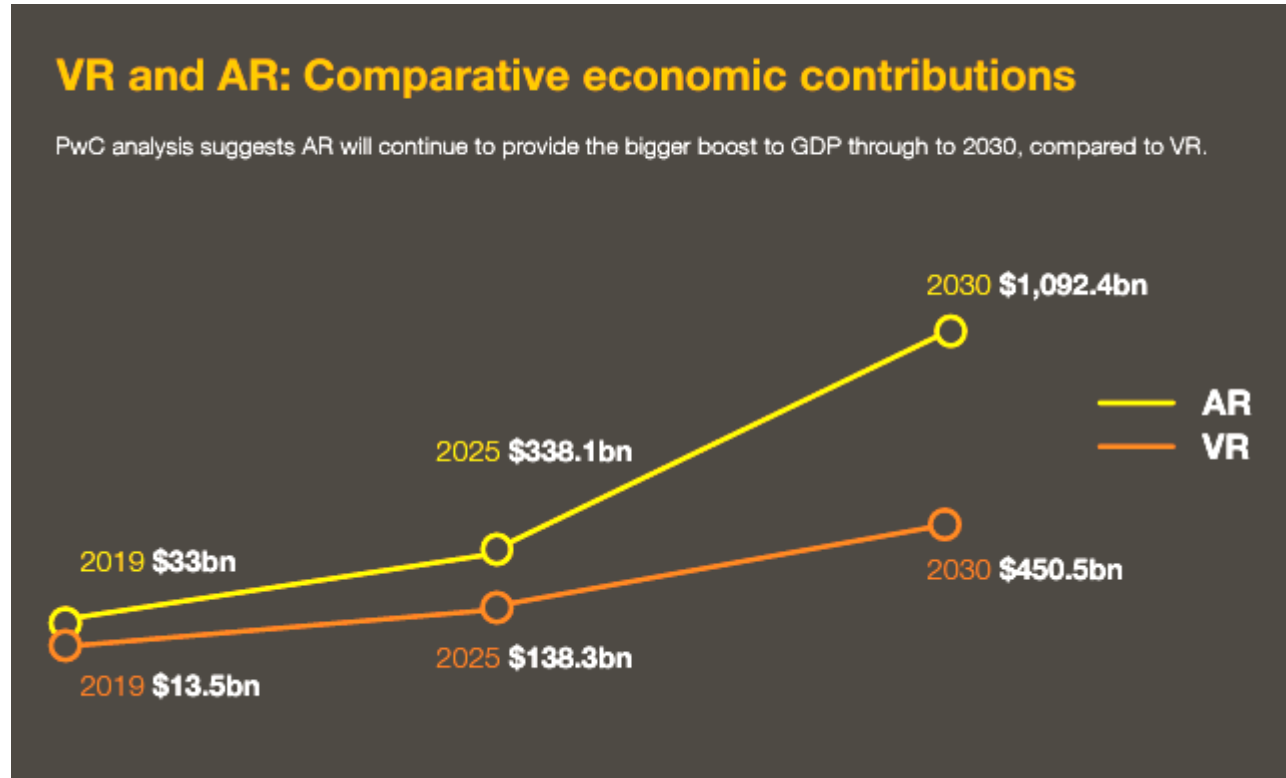
ARの現在地点

デモします

導入戦略

- 安定使用を考えると、現在は「リッチなAR体験」と「ハンズフリー」はトレードオフ。
- 自社のニーズに合わせて、上記どちらかに特化したサービスを検証・導入。ただし、3年周期でARの技術革新が起きているので、3年スパンで見直す。
- 周期・歴史を踏まえ2026年からスマホで味わえるAR技術が安価なスタンドアロンHMDが登場するのでは？ハード投資が必要な「ハンズフリー」は、待つというのも一つの戦略。

市場からの期待



[PwC "How virtual reality and augmented reality are transforming business and the economy" p6\)](#)

まとめ

- ARは、どう情報を重ねるかで種類が異なる。
- 2024年問題の解決策としてDXがトレンド。
人材多様化への対策としてARが効果的。
- 3年スパンのARシステム導入戦略を推奨。

**一歩先行くDXとしてAR導入は良策です。
ご興味あればお気軽にご相談ください！**